

パーフルオロオクタン酸（PFOA）に係る水質調査結果について（第 11 報）

大阪府では、8 月にふっ素を含む有機化合物の一種であるパーフルオロオクタン酸（PFOA）について、神崎川水域の河川水及びその周辺の地下水の水質調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

本調査は、神崎川水域の河川水及びその周辺の地下水において PFOA が高濃度に検出されたことから平成 19 年度より実施しているものであり、今回は 7 年目となります。

調査の結果、河川水（4 地点）及び地下水（2 地点）中の PFOA 濃度は、長期的に減少傾向にあることが確認されました。

次回は、平成 26 年 8 月に調査を実施します。

※PFOA の用途・分解性等については別紙をご覧ください。

1. 調査結果

地点番号	地点名		試料採取日	PFOA 濃度 ($\mu\text{g/L}$)
1	中央水みらいセンター放流水		H25/8/20	0.085
2	安威川	中央水みらいセンター放流前地点		0.023
3		中央水みらいセンター放流後地点		0.080
4		新京阪橋		0.092
5	神崎川	新三国橋		0.030
6	地下水	摂津市一津屋 井戸	H25/8/9	4.6
7		摂津市南別府町 井戸		5.8

※分析機関 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

○安威川上流域（調査地点 2）の PFOA 濃度は、0.023 マイクロ g/L であり、平成 21 年 12 月から平成 24 年 8 月までの 9 回の調査結果(0.0056 から 0.020 マイクロ g/L)と同程度でした。また、本地点の濃度は河川水の調査 4 地点中、最も低い濃度でした。

○安威川、神崎川（調査地点 3 から 5）の PFOA 濃度は昨年度の調査結果と比較すると、同程度又は減少しており、長期的には減少傾向にあることが確認されました。

○同水域で PFOA を取り扱っていたダイキン工業株式会社淀川製作所からの排水は、公共下水道を経由して、安威川流域下水道中央水みらいセンターから放流されています。その放流水（調査地点 1）の PFOA 濃度は、0.085 マイクロ g/L であり、上記 9 回の調査結果（0.099 から 1.2 マイクロ g/L ）と比較すると、長期的に減少傾向にあることが確認されました。

○地下水（調査地点 6 及び 7）の PFOA 濃度は昨年度の調査結果と比較すると、減少しており、長期的に減少傾向にあることが確認されました。

※これまでの調査結果及び調査地点の位置は、それぞれ、別表及び別図をご覧ください。

2. 今後の対応

○ダイキン工業株式会社淀川製作所は、平成 24 年 10 月に PFOA の使用を全廃し、今後は、同製作所敷地内の PFOA を含む地下水の処理に重点を置き、処理装置の維持管理の徹底及び処理排水中の PFOA 濃度の監視をしていくとしています。

○府は、次回実施する平成 26 年 8 月の調査地点を以下のとおりとし、水質調査を行ないます。
また、同製作所の取組状況を把握するとともに、必要に応じて指導を行います。

調査地点

地点番号	地点名		平成 26 年度調査
1	中央水みらいセンター放流水		実施
2	安威川	中央水みらいセンター放流前地点	実施
3		中央水みらいセンター放流後地点	終了 ^{注1}
4		新京阪橋	実施
5	神崎川	新三国橋	終了 ^{注2}
6	地下水	摂津市一津屋 井戸	実施
7		摂津市南別府町 井戸	実施

注 1) 3：中央水みらいセンター放流後地点（安威川）については、PFOA 濃度が安威川における最高濃度を示すと考えられる地点であったことから調査していましたが、ダイキン工業淀川製作所における使用全廃により最高濃度を示す地点が特定困難となったため、調査を終了いたします。

注 2) 5：新三国橋（神崎川）については、過去の測定実績により、PFOA 濃度が新京阪橋の約 1/2 で安定的に推移していることが確認できたため、新京阪橋（安威川）の調査結果により濃度推測が可能と考えられることから、調査を終了いたします。

【代表連絡先】

環境農林水産部 環境管理室

環境保全課 化学物質対策グループ

ダイヤルイン番号：06-6210-9578

メールアドレス：kankyokanri-g09@sbox.pref.osaka.lg.jp